

孙海英◎著

汉日动词谓语句类非限制性定语从句对比研究

日本語と中国語の動詞句連体修飾節の構文と機能

黑龙江人民出版社

北京日本学研究中心学术专著丛书

北京日本学研究中心学术专著丛书

汉日动词谓语句非限制性 定语从句对比研究

日本語と中国語の動詞句連体
修飾節の構文と機能

孙海英 著

黑龙江人民出版社

图书在版编目(CIP)数据

汉日动词谓语句类非限制性定语从句对比研究/孙海英著.
—哈尔滨:黑龙江人民出版社,2009.9
ISBN 978-7-207-08447-7

I. 汉... II. 孙... III. 语法—对比研究—汉语、
日语 IV. H364 H14

中国版本图书馆CIP数据核字(2009)第177034号

责任编辑:姜海霞
封面设计:张娟

汉日动词谓语句类非限制性定语从句对比研究

孙海英 著

出版发行 黑龙江人民出版社出版发行
通讯地址 哈尔滨市南岗区宣庆小区1号楼
邮 编 150008
网 址 www.longpress.com E-mail hljrmcbs@yeah.net
印 刷 黑龙江省地质测绘印制中心印刷厂
开 本 880×1230毫米 1/32
印 张 6.5
字 数 100 000
版 次 2009年10月第1版 2009年10月第1次印刷
书 号 ISBN 978-7-207-08447-7/H·322
定 价 18.00元

(如发现本书有印制质量问题,印刷厂负责调换)

本社常年法律顾问:北京市大成律师事务所哈尔滨分所律师赵学利、赵景波

序 一

日语与汉语,有着许多相通之处,也有着不少独自的特点。无论对于母语者还是对于第二语言学习者来说,要想真正了解日语和汉语的特性,最基本的方法之一就是通过对语言的对比观察和分析。近年来,我国日语学界出现了一些基于语言对比研究方法的高水平成果,而且多来自博士论文级别的研究课题,本书就是其中的佳作之一。

本书的研究对象定语从句一直是汉语和日语语法研究的关注点,也是非母语学习者经常出现偏误的一种语言表现。著者从进入硕士课程以来,一直以定语从句的研究作为主攻方向。著者认为,日语和汉语的定语从句在语序上相同并多数情况下可以互译,但是日语动词定语从句却有一些不能直接译成汉语动词定语从句,这种现象反映了两种语言在句法结构和话语功能上相似和相异的特点,有待通过大量的真实语料进行细微考察和理论解释。

围绕上述课题,著者基于朱德熙(1956)对形容词定语从句“描写性”和“限制性”的功能区分观点和益冈隆志(1995)关于定语从句与主句的句法语义关系紧密程度的观点,利用北京日本学研究中心开发的中日对译语料库获取大量的双语对译语料,对日语和汉语动词定语从句对译和不对译的现象进行了广泛的梳理和

深入的分析,并运用认知语言学的信息背景化理论进行了解释,提出了新的见解,很好地完成了博士阶段的研究工作。

本书通过该课题的研究成果,向我们展示了如下的研究思路 and 方向:

1. 语言对比研究可以加深我们对语言的共性和个性的认识,但前提是必须通过大量的真实语料,经过细致的整理和论证,而不是单靠个人的母语和翻译去内省和下结论。

2. 语言对比研究可以使我们将一种语言的研究成果及理论观点在更多种语言的研究中加以应用和检验,使之得到进一步的修正和发展。

3. 句法研究既要重视具体的结构和语义,也要重视句子生成的认知机制和语用功能。不同语言的语法现象的差异,往往可以从不同的意识和行为深层寻到根源。

这部专著是著者刻苦学习和努力实践的结果。2004 年著者考入北京外国语大学日语语言学博士课程,此后经过两年孜孜不倦的寒窗苦读和一年的留日研修,在北京日本学研究中心中日双方指导教师的帮助下,渡过了许许多多的难关,完成了博士论文,获得博士学位。目前,正一边从事高校日语专业教学工作,一边继续向着更高的目标努力攀登。

我们期待通过本专著的出版,可以使从事日语教育和日语研究的同行们从中获得裨益,也能够使著者本人得到更多专家的指教和信息反馈,为日语研究与教学作出新的贡献。

北京外国语大学 教授

曹大峰

2009 年 9 月于北京

序 二

本書の著者の孫海英さんは、2006年4月から翌年3月まで、私が所属する国立国語研究所に滞在し、博士論文の草稿を執筆された。その間、私は相談相手のような立場で、論文執筆のお手伝いをさせていただいた。孫さんとは週に1度ぐらいのペースで議論をした。論文を書く孫さんにとっては大変な1年であったと思うが、相談相手である私にとっては、日本語と中国語についていろいろな議論ができる楽しい時間であった。

論文の最終的な仕上げは、北京日本学研究中心に赴任されていた矢澤真人先生（筑波大学）の指導のもとでなされた。矢澤先生は常に本質をついた的確なコメントをされる方である。矢澤先生との議論は、議論の説得力を増す上で非常に有益であったと思う。

本書で扱われているのは、名詞修飾構造の普遍性と多様性にかかわる問題である。日本語は名詞修飾構造が多用される言語である。実際、中国語では文の形で述べられるところで、日本語では名詞修飾節を含む名詞句の形で述べられることがしばしばある。

- (1)a. 子供がいたずらした。[親は怒って]S,子供を叱った。

孩子做了恶作剧。[父亲很生气]S,于是斥责了孩子。

- b. 子供がいたずらした。[怒った親]NPは子供を叱った。

? 孩子做了恶作剧。[生气的父亲]NP斥责了孩子。

(本書例文)

- (2)a. [やがて闇から貨物列車が現れて来て]S,二人の姿を隠した。

[转眼间从黑暗中出现一列长长的货车]S,挡住他俩的身影。

- b. [やがて闇から現れて来た長い貨物列車]NPが二人の姿を隠した。

? [转眼间从黑暗中出现的一列长长的货车]NP挡住他俩的身影。

(本書例文)

(1)(2)は、「親が怒って、子供を叱った」、「列車が現れて、二人の姿を隠した」という事態連鎖を述べる文である。中国語では、aのようにそれぞれの事態が文の形で述べられるが、日本語では、bのように先行事態を名詞修飾節の形で述べることがごく自然になされる。

映画などの脚本の場面説明(ト書き:舞台説明)も、中国語では文の形で述べられるが、日本語では名詞句の形で述べられる

ことが少なくない。

(3) (脚本のト書き)

[無言で立ち去る太郎]NP。[それを見つめる花子]
NP。

* [默不作声地离去的太郎]NP。

* [直盯着他的花子]NP。

[太郎默不作声地离去]S。[花子直盯着他]S。

次の現象も類似の現象として位置づけられるかもしれない。

(4)a. 彼は[性格がいい]S。/他[性格很好]S。

b. 彼は[いい性格]NPだ。/*他[很好的性格]NP。

日本語では、名詞句を用いた「いい性格だ」が形容詞的に機能するが、中国語では、「性格很好」のように文の形を用いなければならぬ。

名詞修飾構造の機能に関する日本語と中国語のこのような相違がどこから生ずるかということは、言語学的に見て非常に興味深い問題である。孫海英さんの研究は、主に(1)(2)のような現象に注目して、詳細な事実観察と認知言語学の理論をふまえ、「日本語でも中国語でも、名詞修飾節化は主節に対する背景化の機能を担うが、中国語のほうが名詞修飾節化による背景化の度合いが高い」ということを明らかにしたものである。この結論は、日本語の(3)(4)のような現象について考えるためのヒントになると同時に、世界諸言語における名詞修飾節の機能の普遍性と個別性について考える上で本質的に重要な観点となるはずである。今後、日本語研究・中国語研究の枠にとどまることなく、世界の諸言語を視野に入れて研究が深められることが期

待される。

そのために重要なのは、さまざまな言語の研究者の関心を喚起することである。言語現象は言語研究者の共有財産である。日本語の現象が持つ言語学的な意義も、日本語研究者にしか理解できないというものではない。本書に限らず、日本語研究で取り上げられている現象やそれに対する分析の中には、中国の言語研究者にも興味を持ってもらえるものが少なくないはずである。中国の日本語研究者の方々には、日本語で書かれた論文の内容をぜひ日本語を知らない中国の言語研究者の方々に紹介していただきたい。そのことは、中国の言語研究界における日本語研究の地位向上に貢献するだけでなく、中国の言語研究界全体の発展にも一定の貢献をなすものと信ずる。

国立国語研究所 教授

井上 優

二〇〇九年一〇月

前 言

定语与状语、补语等成分一样,是主语、谓语、宾语等句子主要成分的重要修饰补充成分,反映着人们在话语交际中信息认知和传递的特征。汉语和日语中定语从句的研究一直是语法研究的关注点,而汉日对比研究以往主要是围绕名词定语和形容词定语从句进行的,动词作谓语的非限制性定语从句的汉日对比研究笔者尚未见到先例。我们通过中日对译语料库观察分析,发现日语和汉语的定语从句在语序上相同并多数情况下可以互译,但是日语中,动词谓语类非限制性定语从句却有一些不能直接译成汉语动词谓语类非限制性定语从句的情况。两种语言表达上的这种差异往往造成日语或汉语动词谓语类定语从句的习得困难和使用偏误,也会引起翻译中冗长难懂的直译现象的产生。

笔者从解决上述实际问题的愿望出发,在调查分析大量语料的基础上,探讨了以往未能解释和说明的汉日语动词谓语类非限制性定语从句的句法结构和话语功能的差异,并通过认知语言学背景化理论对导致两种语言之间差异的原因做了理论上的解释。

背景化理论从立体的、动态的角度把句子看做是由图形(*figure*)和背景(*ground*)组成的有机体。在句子中作主要成分,传递

主要信息的成分相当于图形;处于次要地位,为句子提供辅助衬托信息的成分相当于背景。我们对句子的完整理解是建立在图形信息和背景信息的有机结合基础之上的。

定语从句和主句之间的关系也可以用背景和图形的关系描述。主句传递句子的主要信息,相当于图形;定语从句为我们理解句子提供辅助信息,相当于背景。笔者以最常见的指代特定人物的名词做中心名词和指代语境中新出现事物的不定名词做中心名词两类动词谓语类非限制性定语从句为具体考察对象,通过分析对比汉日语在句法结构和话语功能上的差异,发现定语从句与主句之间语义关系的紧密程度和定语从句在话语中的功能差别,反映了两种语言定语从句背景化程度的高低差别。虽然定语从句在两种语言中都是背景化了的成分,都在句中起凸现主句地位、补充主句内容、连贯前后话语的作用,但是背景化的程度并不相同。笔者通过对对译语料的分析得出汉语的动词谓语类非限制性定语从句背景化的程度比日语的同类定语从句背景化程度高的结论。

第一章概观了日语和汉语中有关定语从句的主要先行研究,说明了其与本文考察对象之间的关系,并从朱德熙(1956)对形容词定语从句“描写性”和“限制性”性质的区分得到启发,发现汉日语动词谓语类非限制性定语从句的差异也有着相似的关系。即与汉语不对译的日语动词谓语类非限制性定语从句有着类似形容词定语从句“描写性”的性质,而可以与日语对译的日语动词谓语类非限制性定语从句有着类似形容词定语从句“限制性”的性质。笔者认为动词谓语类非限制性定语从句性质上的变化与动词小句在充当定语从句以后叙事能力的强弱变化有关。

第二章借鉴益冈隆志(1995)的研究成果,从句法结构方面详

细考察了日语动词谓语类非限制性定语从句与主句之间的各种语义关系,发现定语从句与主句语义关系的紧密程度在日语内部体现出不平衡性,大致可按强弱程度排列为:[转折关系/继起关系/因果关系/主句事件前项转化类/主句谓语信息补足类]>[被修饰名词信息附加类/主句信息附带类]。在与汉语的对比中,笔者发现与主句的语义关系不紧密的定语从句容易直译成汉语的定语从句,而与主句的语义关系紧密的定语从句不容易直译成汉语的定语从句。笔者认为与主句的语义关系越紧密,定语从句的背景化程度就越低,由此可以推定汉语的动词谓语类非限制性定语从句的背景化程度比日语的同类定语从句的背景化程度高。

第三章和第四章从定语从句的话语功能方面考察了汉语和日语的差异。

首先,日语中存在具有话语展开功能的动词谓语类非限制性定语从句。这类定语从句与前句表达的事件和主句表达的事件共同构成一个具有因果关系的完整事件,定语从句作为事件发生发展的一环,是连接前句事件和主句事件的过渡环节,在话语中起到提供新信息、推动话语进展的作用。汉语的动词谓语类非限制性定语从句不具有话语展开功能,基本话语功能是通过重复前文出现过的旧信息,对中心名词进行同指认定,衔接上文、激活语境、促进理解。日语和汉语定语从句在话语功能上的差异体现在提供信息的价值上,反映出二者在背景化程度上的差异,即:日语的动词谓语类非限制性定语从句可以为话语提供新信息,与前句和主句共同构成一个具有前因后果的连续完整事件,背景化的程度低;而汉语的动词谓语类非限制性定语从句重复使用话语中出现过的旧信息,不直接参与主句所表达的事件,背景化的程度比日语高。

其次,汉日语都存在具有眼前描写功能的定语从句。笔者通过汉日对比发现该类定语从句在日语中可以细分为场面切换类和场面维持类,汉语中一般只见后者,不见前者。场面切换类定语从句将话语推至新场景,左右话语进展方向;场面维持类定语从句不具备切换话语场景的功能,对话语发展的影响力没有场面切换类定语从句大,从这个意义上可以说场面切换类定语从句比场面维持类定语从句的背景化程度要低。论文通过日译汉时出现的不对译现象进一步证明了日语定语从句的背景化程度较汉语低的特性。

关键词:动词谓语句非限制性定语从句 背景化程度
语义关系 话语功能 汉日对比

目次

第一章 本研究の取り扱う問題	(1)
1. 本研究の取り扱う研究対象	(1)
2. 連体節の分類に関する概念	(5)
2.1 制限的連体節と非制限的連体節	(5)
2.2 「内の関係」・「外の関係」と“的”の“自指”・ “转指”	(9)
2.3 連体節の接近可能性階層	(14)
2.4 同一名詞連体修飾と付加名詞連体修飾	(18)
2.5 中国語の“限制性定语”と“描写性定语”	(22)
3. 本書の構成	(28)
4. 例文の出典	(35)
第二章 非制限的動詞句連体節の構文的相違	(38)
1. 問題提起	(38)
2. 連体節の背景化 < backgrounding > と主節の前景化 < foregrounding >	(43)

3. 日本語の連体節の背景化	(47)
3.1 情報付加の機能を持つ非制限的連体節	(49)
3.2 情報付加ならざるもの	(53)
4. 背景化から見た日中両言語動詞句連体節の相違	(56)
4.1 情報付加の機能を持つ非制限的連体節	(56)
4.2 情報付加ならざるもの	(70)
5. まとめ	(72)
 第三章 談話展開の機能における相違	(73)
1. 問題提起	(73)
2. 日本語の動詞句連体節の談話展開の機能	(74)
3. 中国語の動詞句連体節の談話機能との相違	(82)
4. まとめ	(100)
 第四章 「眼前描写」機能における相違	(101)
1. 問題提起	(101)
2. 文脈上新出の名詞につく動詞句連体節の構文的 特徴	(104)
2.1 主名詞は「不定」の指示性を持つ	(104)
2.2 連体節が非制限的である	(105)
2.3 連体節が主名詞の出現存在様式を叙述 する	(105)
2.4 「眼前描写」の連体節	(109)

3. 「眼前描写」の連体節と談話展開型連体節の 関わり	(114)
4. 「眼前描写」の連体節の場面転換機能と場面維持 機能	(118)
4.1 場面維持の眼前描写連体節	(121)
4.2 場面転換の眼前描写連体節	(126)
5. 「眼前描写」でない類	(136)
6. 「背景化」から見た中日動詞句連体節の機能の 相違	(142)
7. まとめ	(147)
 第五章 本研究の意義	(148)
1. 言語理論の応用	(148)
1.1 認知言語学理論の応用	(149)
1.2 先行研究の吸収・転用・発展	(150)
2. 研究方法の応用	(170)
2.1 対照研究	(170)
2.2 中日対訳コーパスの応用	(174)
3. 本研究によって明らかにされたことと応用的 意義	(174)
3.1 背景化の程度から見た日中動詞句連体節構文の 相違	(174)
3.2 応用的意義	(175)
4. これからの課題	(180)

4.1 考察範囲の全面化を目指して	(180)
4.2 実証性の高い研究成果を目指して	(181)
参考文献	(183)
后记	(188)